



フェローシップ・ニュース No.137



NPO法人アパリはお引越します！！

時期：2026年9月～10月ころ

場所：新宿区河田町

(住所：新宿区河田町3-15 河田町ビル1階)

※詳細は決まりましたらホームページ上でお知らせします。

12年前に台東区東上野から新宿区余丁町に移ってきましたが、昨年末頃、ビルのオーナーから立ち退きのお話があり、年内に近隣のビルにお引越することが決まりました。

場所は現在のAICビルから徒歩5～6分程度。最寄り駅は都営新宿線の「曙橋」と都営大江戸線の「若松河田」になります。どちらも歩いて7～8分程度です。曙橋からは曙橋商店街を抜けて少し歩いたところですが、坂道も無く以前よりラクに歩けます。

移転時期は内装工事等の進み具合によるので現段階ではっきりしませんが、9月～10月ころを予定しています。

事務局長 志立

河田町ビル



事務所移転に伴いまして、10月から 家族教室をリニューアルオープンします！！

☆第1月曜日 17時半～19時半

『ドクター梅野の依存症リカバリーラボ』

ナビゲーター：梅野充（精神科医師）

☆第2土曜日 16時半～18時半

『弁護士高橋の依存症リバイバルプラン』

ナビゲーター：高橋洋平（弁護士）

☆第1月曜日 13時半～15時半

『家族のホッと一息 リカバリーカフェ』

（従来から開催しているもの）

案内役：志立玲子

（精神保健福祉士・公認心理師）



その方の状況に応じて3つのプログラムを用意しより実践的で参加しやすい家族教室へと生まれ変わります。

10月以降の開催については決まり次第ホームページにてお知らせします。

同じビルの2階、3階で開業している、医療法人社団アパリ アパリクリニックも丸の内線、都営大江戸線「本郷三丁目」駅から徒歩すぐのところに移転します。※移転の日程など詳細はアパリクリニックのホームページにてご確認ください。<https://www.apariclinic.com/iten>

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域
アディクション研究所

発行日
2026年7月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute) の略称です。

全国のDARCやMAC等の社会復帰施設、福祉・教育・医療・司法機関と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

NPO法人アパリはお引越します…志立	1
藍綬褒章受章を祝して…志立玲子	2
クラウドファンディングの報告…中沢一郎 支援につなげる弁護士(35)…高橋洋平	3
コラム 心のつぶやき日記(18)…野呂岳央	4
藤岡ダルク20周年記念フォーラム開催…山本大	5
藤岡ダルクの入寮者からのメッセージ…ダイスケ	6
BASEより…市川元太	7
司法サポートのご案内 家族教室スケジュール	8

五十畑修氏 「藍綬褒章」受章を祝して

事務局長 志立 玲子

五十畑さん（日本ダルク 神奈川）は、令和7年秋の叙勲において、永年にわたる団体活動を通じた社会福祉への功績が認められ、「藍綬褒章（らんじゅほうしょう）」を受章されました。

去る6月15日の夕刻には「藍綬褒章受章を祝う会」が開催され、私も参加させていただきました。当日は、全国からダルクの仲間、依存症支援の関係者、趣味の仲間、自身のご家族など80名弱が集い、受章を盛大にお祝いしました。今回の受章は、20年以上前にダルク創設者・故近藤恒夫が始めた横浜刑務所の受刑者へ回復のメッセージを届ける活動を、五十畑さんがその志を受け継ぎ、永年にわたり継続してこられたことが高く評価されたものと伺いました。当日は横浜刑務所の職員や元法務省関係者からも祝辞が寄せられ、その功績の大きさがうかがえました。

また、五十畑さんは挨拶の中で、「DARCの仲間達と良き友人達、私を支えてくれた皆さんと一緒に受け取ったものだと感じています！」と語られました。その言葉には、これまで共に歩んできた仲間への感謝と、回復を支え合うダルクの精神が込められており、とても印象深く感じました。近藤さんも、この受章を天国から喜んで見守っていることでしょう。そして、この栄誉は、今もなお薬物依存の問題で苦しむ方々にとっても、希望の光となるものではないかと感じました。

会場となったレストランは落ち着いた雰囲気、おいしい料理を囲みながら終始和やかな時間が流れました。このような晴れやかな席に立ち会うことができたことを光栄に思うとともに、五十畑さんの今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



奥様から花束が...



横浜刑務所のグループワーク風景
などスライドショーがありました。



会場には賞状が飾られていました。

藍綬褒章（らんじゅほうしょう）とは？

社会福祉や公共事業などで公衆の利益に大きく貢献した人や、公的な仕事に長年熱心に取り組んだ人を国が表彰する褒章の一つです。1881年に創設され、春と秋の年2回、内閣の審査と天皇の認証を経て授与されます。



参加者の皆さん
と記念撮影



ー 近藤恒夫を追い続けてー クラウドファンディング報告！！

目標額：500万円 結果：830万5千円

4月から始めたクラウドファンディング。6月30日を持ちまして、無事終了いたしました。皆さまのご支援、応援のおかげで、8,305,000円の寄付金が集まりました。本当にありがとうございます。大切に映画の制作費として使わせていただきます。

クラウドファンディングという、初めての試みで、最初は不安しかありませんでしたが、おかげさまで今は感謝しかありません。

今回、クラウドファンディングをして感じたことは、近藤さんとダルクの凄さです。「近藤さんのためなら」「依存症を知ってほしい」と、いろんな方々が惜しみなく協力してくれました。

亡くなくても凄いパワーを持っている近藤さんです。その力とメッセージは、ダルクの人たちに受け継がれていることを感じました。

7月からは、最後のロケをおこないます。そして、8月からは編集作業。20年に及ぶ膨大な映像の編集です。気が遠くなるような大変さが予想されます。その後、仕上げに入り、来春の劇場上映を目指していきます。

何としてもいい映画にしなければという強い思いで挑みます。少し気が早いですが、劇場に観に来てください。改めまして、本当にありがとうございました。引き続き、応援よろしくお願いいたします。

ドキュメンタリー映画『ボーン・アゲイン 薬物依存症と生きる』
監督 中沢 一郎



コラム

支援につなげる弁護術 (35)

理事・嘱託研究員・弁護士 高橋 洋平

何度もやり直すチャンスがあったのに、結局はうまくいかない。失敗した。回復のプロセスでは、そんなこともあるかもしれません。

ただ、日本の刑事法は、そうしたプロセスをいつまでも放っておいてくれません。逮捕という強制的な大綱に掛ければ、勢いそのまま起訴され、裁判、そして刑務所です。

それでもまた同じことを繰り返してしまう。いつまで経っても、依存症のスパイラルに悩む本人と家族。誰にも相談できず、深く落ち込み、人生はもう終わりだと嘆くばかり。

それでも人生は続いていきます。絶望し、悲観する人生よりも、少しでも前向きな気持ちになれるように。本人には「回復」という道の途上で、少しでも希望を持ってほしい。家族もその回復を信じて、希望を見つけてほしいと思います。

そのためには、支えてくれる人の存在はもちろん、同じように歩んでくれる仲間の存在も大切です。そうしたことが当たり前理解される社会になったら、とてもよいと思います。

誰にでも失敗はあります。失敗を受け止めて、立て直していくためのチャンスが用意されていることが、とても大切です。

最後まで諦めなければチャンスがあります。何度失敗しても諦めない。こうしたスピリッツを持つ大切な仲間の活動が社会に評価されると、やっぱりうれしいものです。

イサムさん（五十畑さん）、藍綬褒章受章、本当におめでとうございます！





就労継続支援B型
事業所 Will

新規利用者
新規作業
大々的に募集中!!
Tel:03-5925-8874
mail:contact@will-
tokyo.org



Willは5月で3周年を迎えました。それを記念してピザパーティーが開かれました！



バザーの様子
押し花の葉が売れました！



七夕の飾り



Willのコラム

心のつぶやき日記 (18)

施設長 野呂 岳央 (タケ)

「アディクションとAI 第1回：思い込みの暴走ループと、乗っ取られる頭」

最近chatGPTやClaudeなど「大規模言語モデル」と呼ばれるAIが急成長し、活用の場面が広がってきています。このモデルは、自分が出力したテキストをそのまま次の入力として読み込み、言葉を積み重ねながら思考を続けていきます。

ですが、このAI、文脈が長くなってくるとどうも困ったことが起きやすいんです。

例えば、明らかな間違いをこちらから指摘しているのに、「いいえ、違います。私が正しいです」と頑なに自説を譲らず、堂々と嘘を突き通してくる。適当な嘘ではなく、自らの過去の記憶や知識を器用に繋ぎ合わせて、さも真実であるかのような精巧な理屈を組み立ててくる。

時には、私が発言していないことを「あなたがこう言いました」と正面から主張してくる。

私はその瞬間、いつもイラっとしてキーボードでケンカをしています(笑)。

記憶を繋ぎ合わせて偽の理屈を作る部分は「幻覚 (hallucination)」や「作話 (confabulation)」と呼ばれますが、それを頑として譲らない拳動のほうは、まだ決まった呼び名すらないようです。AIが幻覚？！と思うかもしれませんが、一度間違ったデータや混乱した文脈を自分が出力してしまうと、それに引っ張られ、思考や推論が思わぬ方向へ勝手に走り出し、自分自身でその歪みに気づくことができなくなってしまうのです。

実はこれ、私たち人間の「アディクション」の構造と、恐ろしいほどに重なっているなと感じます。

お酒や薬物、ギャンブルといった強い欲求に頭が染まってしまうときなど、私たち当事者の頭の中でも、まったく同じ「思い込みの暴走ループ」が起きています。過去の強烈な記憶や、「これがないと生きていけない」という歪んだ経験・知識が頭の中に蓄積されると、思考はあっという間に流されて歪んでいきます。どれだけ周囲から「もう限界だよ」「壊れているよ」と事実を突きつけられても、「いや、ストレス解消のためだ」「まだ周りに迷惑はかけていない」と、疑いもなく本気でもっともらしい言葉を口にします。

私自身も長い間、自分の思考破綻がわからず、それでも必死に頭の中で辻褄を合わせて生きてきました。薬や酒をやめても、壊れた思考のクセは残り続けます。12ステップでは「否認」と呼ばれますが、ただし一般的な意味での否認とは違います。決して本人は嘘をついているわけではない。ある意味、マイストーリーの中で生きる人間として、自分を正直に表現したまです。

ただ、このバグの本当の恐ろしさは、「自己認識がまったくできていないのに、自分はわかっていると思い込んでいる」という点にあります。エラーを起こした頭は、自分の考えが歪んでいることを認識できません。テキスト文脈が汚染されたAIが「AI自身の思考のゆがみ」を理解できないのと同じように、アディクションに飲まれた頭で、自分の状態を自分だけで客観視するのは、まず無理な相談なんですよ。

さらにやっかいなのは、私たちは心のどこかで「自分じゃどうしようもない、何かがおかしい」と薄々感づいていながらも、なお「自分の力で、自分で考えて、何とかコントロールしよう」と余計にしがみついてしまう特性があることです。自分の司令塔は自分であり、自分のことは最終的に自分で決める。その頑固な「自己コントロールという妄想」が取れないと、現実の助けの手をすべて跳ね返してしまうのです。

しかし閉鎖した自分一人の頭の中でどれだけ考えても、壊れたシステムが自分を修正することはできません。

AIには「システムプロンプト」という、あらかじめ与えられた基本ルールのようなものがあります。「丁寧に答えなさい」「わからないことは正直に言いなさい」——。ところが文脈が汚れて暴走モードに入ると、AIはこの大前提のほうをスルリと無視して突っ走ってしまう。

私たちにも、同じような「基本ルール」があります。例えば「もう二度とやらない」と固く決めた、あの決意です。でも「スイッチ」が入った瞬間、その決意はまるごとシャットダウンされてしまう。

AIの扱いにおいては、暴走したAIのセッションは速やかに閉じて、完全に新しい画面を立ち上げ直すのが最善の解決策です。私たちにとっては仲間やセルフケア。汚染されたセッションが閉じられない以上、こうするしかないのでしょうね。

AIに教えられたことその1。「自分の頭は、時に自分自身を騙し、どれだけ間違っているでも『正しい』と言い張るバグを抱えている」、忘れないでいたいものです。

藤岡ダルク 20周年記念フォーラム 開催！！

おかげさまで藤岡ダルクは今年、開設20周年を迎えることができました。これもひとえに、支えてくださる皆様のお力添えの賜物と、心より感謝申し上げます。この節目を記念し、「藤岡ダルク20周年記念フォーラム」を開催いたします。

現在、スタッフ一同、皆様に喜んでいただけるよう準備を進めております。ぜひ多くの皆様にご参加いただき、ともに20周年をお祝いできれば幸いです。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

代表 山本 大

日時：2026年11月7日（土）

14時～18時30分（開場13時30分）

会場：みかほみらい館 大ホール

群馬県藤岡市藤岡2728

内容：「ここが変だよ藤岡ダルク」

利用者による体験談

スライドショー

藤岡ダルク バンド演奏

琉球太鼓演舞 ほか

申込：不要 参加費：無料

懇親会：18時40分～20時

（隣のギャラリーにて開催、軽食あり）

参加費無料、当日申込可

<アクセス>

【電車の場合】・JR八高線「群馬藤岡駅」（会館まで2.9km、会館行の路線バスあり）

・JR高崎線「新町駅」（会館まで6.7km、駅から路線バス利用で最寄バス停から1km）

・「新町駅」からタクシーがお勧め。

【お車の場合】藤岡IC から 藤岡方面(R254方面)へ降りて、約3Kmを道なりに直進、十字路(上大塚の信号)を左折して約1km、3つ目の信号を右に曲がって、坂道を上りきった丘の上が「みかほみらい館」。





藤岡ダルクの入寮者からのメッセージをお届けします！

藤岡ダルク 入寮者からのメッセージ

「眠れない夜を越えて」

ダイスケ

こんにちは、アルコール依存症のダイスケです。藤岡ダルクに入寮して1年10か月経ちます。

私は両親、姉、妹の5人家族でみんな仲が良いですし貧乏でもなく、何の問題も無いごく普通の家庭で育ちました。そんな中、私が18歳の時に突然不眠症を発症しました。眠れなくて苦しかった私は、どうしていいかわからず悩んだ末に母親に睡眠薬を試してみたいと相談してみたのですが、当時はまだ睡眠薬＝自殺というイメージが強かったし、世間でやっと「うつ病」が認知されてきたくらいで今程精神病に理解がなく「馬鹿じゃないの」の一言で片づけられました。正直、自分もそう思っていたので納得し睡眠薬という選択肢は無くなり、不眠症に対しては自分で対処するしかありませんでした。

眠れなくても自分が苦しいだけなら耐えるだけ、他人に迷惑をかけなければ問題ないと思っていたのですが、働きだすと仕事に集中できなかつたり車を運転中に眠くなつたりするようになりました。他人に迷惑をかけなければ問題ないと思っていたのですが、眠らないと仕事の効率が下がり会社に迷惑をかける、事故を起こしたら迷惑どころの話ではない、だから眠らないといけないと脅迫観念にかられるようになり、眠るための手段としてお酒に頼るようになり連続飲酒が始まりました。

それからは約15年間、毎日お酒を飲み続けましたが、他の施設を経由して44歳で藤岡ダルクに入寮してからは一度もお酒を飲んでいません。藤岡ダルクの環境に守られているのと、共に依存症と向き合っている仲間たちを裏切りたくない想いが私をお酒から遠ざけてくれているのだと思います。

藤岡ダルクでは様々なプログラムや役割が与えられます。その中には当然苦手なものもあるのですが、それが私を大きく成長させてくれていると思います。

私が苦手な物の中の一つが依存症の特徴でもある、「人とコミュニケーションを取る」ことなのですが、プログラムや役割のおかげで「人とコミュニケーションを取る」ことにも前向きに取り組んでいます。

私が任されている役割の一つが食事当番です。食事当番は50名以上の食事を毎日作ります。限られた時間内で料理を仕上げなければならないので仲間とコミュニケーションをうまく取りながら段取りし、連携していかないと美味しい食事を提供出来ません。美味しく出来た時はたくさんの仲間から「ごちそうさま、美味しかったよ」と声をかけてもらえます。

エイサープログラムもコミュニケーションを取らないとやっていけません。エイサーをするにあたって最初は仲間に教えてもらいます。教えてもらう為にはお願いしなければなりません。お願いすると教えてくれる仲間は善意で自分の時間を割いて親身になって教えてくれます。私も教えてもらう立場なので失礼のないように気を使います。

また、自分が出来るようになってくると今度は教える立場になります。教えてもらうより教える方が断然難しく、すごく苦労しました。教える仲間は自分と同じくみんな依存症で一癖も二癖もある仲間たちばかりで本当に難しいですが、私が教えてもらった仲間達がやっていたように、どういう伝え方をしたら伝わるか相手の立場に立って一人ひとり伝え方を試行錯誤しながら伝えるよう心がけました。最初のうちはとても苦労していましたが、今では教えるのが上手と仲間たちに言われるようになりましたし、歳が離れている仲間から「お父さんみたい」なんて言われたりします。



プログラムでピザを生地から作りました。



発酵させて生地好きなトッピングをのせて次は焼くだけ！！



暑い中、手作りのピザ窯でピザを焼いて行きますよ！

自己中心的な性格が特徴の一つとされている依存症の私が相手の立場に立つことで、相手のことを考え、知り、想うことが出来るようになってきたと思います。

これから先、何度つまずこうとも仲間や周りの人達とコミュニケーションを取りながら頼り頼られ、依存症とうまく付き合いながら生活していきたいと思います。



すべて手作りピザの完成です。みんなで美味しく頂きました！！



BASE ON TOKYO 活動記録

BASE 施設長 市川 元太

今年1月の開所から約半年が経ちました。まだ少人数ではありますが、ミーティングやスポーツ、さまざまなアクティビティを通して、毎日楽しく充実した時間を過ごしています。BASEでは「自主性」を大切にするとともに、これまで経験したことのないことにも積極的に挑戦できるよう支援しています。

また、就労している方や通院を続けている方など、一人ひとりの状況に合わせた、きめ細かなサポートを行い、それぞれが自分らしい回復への道を歩めるよう取り組んでいます。

随時見学も可能です。お問合せください。

<最近のアクティビティ>

5/14 高尾山ハイキングに行ってきました。

6/4 新宿御苑でバラ鑑賞してきました。

6/13 国立競技場でJリーグ就労体験をしました。

6/23 オペラシティアートギャラリーで芸術鑑賞しました。



高尾山山頂にて
皆で頑張って登りました！



新宿御苑はバラがきれいです。



木陰でのんびりと...



初めて登る人も
いました。



国立競技場でJリーグの試合の就労体験をしました。



お洒落なパンフレットが
完成しました！



オペラシティ
アートギャラリー
にて
「拡大するシュ
ルレアリスム展」
を鑑賞

自立訓練(生活訓練)事業所 BASE
TEL:03-6276-8575
住所:東京都渋谷区本町1-16-17 保ビル



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

○アパリ東京本部
〒162-0055
東京都新宿区余丁町14-4
AICビル1階
電話：03-5925-8848
FAX：03-5925-8984
Email：info@apari.or.jp

○藤岡ダルク
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313
○入寮費：月額13万円+生活費
1日千円（初月のみ14.5万円）
（税別）
*生活保護の方も可能
○入寮条件：依存症から回復
及び自立をしようとしている
本人。男性のみ。
○入寮期間：個人により差が
あります。
<https://fujiokadarc.com/>



2019年7月よりホームページが新しくなりました。ぜひご覧ください。

<https://apari.or.jp>

<https://www.facebook.com/AsiaPacificAddictionResearchInstitute/>

AsiaPacificAddictionResearchInstitute/

発行責任者：志立玲子
2026年7月1日発行
定価 1部 100円

＜司法サポートのご案内＞

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決を受け、また薬物のある日常に戻るしかなかった日本において、初めて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みを2000年7月からしています。

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。

保釈中のプログラムの提供、受刑中の身元引受、出所出迎えをしてリハビリ施設につなげるまでをコーディネートします。

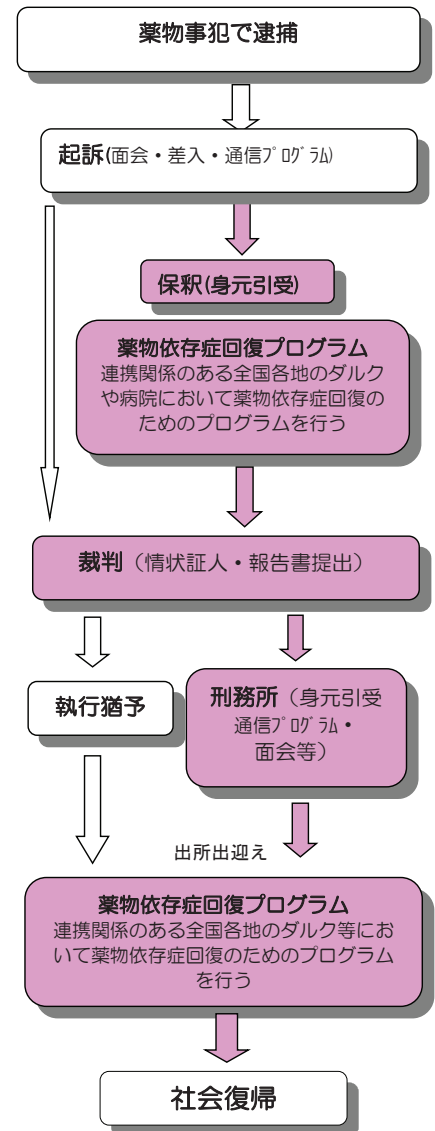
ギャンブルの問題が原因で逮捕された方の司法サポートも行っています。

[料金：コーディネート費用として20万円(税別)。
交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

窃盗、横領、詐欺等で逮捕されたご家族のご相談もお受けしています。

【お問い合わせは東京本部まで】

アパリの支援



＜アパリ家族教室スケジュール・東京＞

第1月曜	連続講座	土曜	嗜癮行動家族教室
7/6(月) 13:30～	第3回 薬物依存症者の心にある 2つの考え	7/11(土) 17:00～	第6回(新) 発達障がいと家族 ～アスペルガーとカサンドラ～
8/3(月) 13:30～	第4回 本人・家族の心の成長- 自律心・自尊心を伸ばす関わり	8/8(土) 17:00～	第7回(新) 家族の回復とは
9/7(月) 13:30～	第5回 気持ちの回復: 家族自身の気持ちと本人の気持ち の両方を大事にする	9月	9月開催なし

10月以降のスケジュールは決まり次第ホームページでお知らせします。

【対象】ご家族、支援者等(本人は参加できません)

どちらも全8回の講座ですが、どの回からでも参加できます。

【場所】アパリ東京本部 【参加費】3,000円 (2名以上の場合は4,000円)

連続講座 講師：志立玲子(精神保健福祉士・公認心理師)

嗜癮行動 講師：梅野充(精神科医師)、志立玲子